

クローズアップ

NGO・NPO

Close Up

NGO・NPO

みのお外国人医療サポートネット

みのお外国人医療サポートネットの活動

～これまでと今後の課題～

みのお外国人医療サポートネット(以下、みのお医療ネット)が活動を始めて二年一〇カ月が経過した。準備期間を含めると約四年間、外国人への医療サポートについて考えてきた。地域で生まれた小さなボランティアグループだが、外国人への医療分野でのサポートという未経験の課題に取り組んできた。本稿では「みのお医療ネット」の活動を簡単に紹介し、今後の課題を考えてみたい。

1. 設立の経過

一九九九年、箕面市在住の国立民族学博物館の客員研究員(インドネシア出身)が突然病気になる、いくつかの病院を受診したものの、十分な治療をしてもらえないまま死亡する事件があった。三連休中であったという日本の救急医療システムの問題とともに、言葉が通じないことが入院拒否の理由にされたことなどが、当時外国人の生活や人権の問題を考えていたボランティアたちにも大きなショックを与えた。その後、二〇〇〇年の夏に地域住民同士の相互の支援としての医療サポートを目指し、みのお医療通訳ボランティアネットワークをつくった。その後一年半、先進地である山形県や豊田市の視察、各地のセミナーへの参加、ボランティア向け五回連続セミナーの実施、計二五回の準備会などを経て、二〇〇二年一月に「みのお医療通訳ボランティアネットワーク」を設立した。その後、二〇〇三年四月に会の特徴をより反映した「みのお外国人医療サポ-

トネット」に改称し、現在に至る。

2. 現在の活動

(1) 箕面市を含む近隣地域の病院への同行・通訳。現在の対応言語は、英語、韓国朝鮮語、中国語、スペイン語、タイ語。フランス語、スワヒリ語のメンバーもあり、場合によって対応。この活動は、箕面市医師会の協力のもとに、(財)箕面市国際交流協会及び箕面市との共催事業として行われている。依



↑箕面市国際交流協会が実施した病院見学会で通訳研修

- 頼の受付は箕面市国際交流協会の業務時間内は協会が行い、時間外や休日はみのお医療ネットワークが直接受け付けることとしている。できる限り二名のボランティアが同行し、通訳等に当たる。
- (2) 地域の病院情報、相談機関や情報提供機関の紹介などの情報提供
- (3) 他団体や個人とのネットワークワーキング(各種セミナー等への参加や他団体を招いた研修)
- (4) 医療機関や在住外国人への広報活動(医療機関訪問、ラジオ番組製作協力など)

みのお外国人医療サポートネット

〒562-0023 箕面市案生間谷西1-2 (財)箕面市国際交流協会ボランティア活動ルーム内 TEL 072-727-6912 FAX 072-727-6920
E-mail: minoh_medi_net@hotmail.com URL: http://www.hcn.zaq.ne.jp/minoh-medi-net/



↑外国人市民向けの携帯用カード—英語版

- (5) 毎月一回の研修(診療場面のロールプレイ、医療の基礎知識、通訳技術、異文化コミュニケーション技術など)

3. これまでの依頼の特徴

二〇〇二年の発足から二〇〇四年一〇月までの二年一〇カ月の実績は、病院への同行・通訳七六件(英語四六件、韓国・朝鮮語一件、中国語八件、日本語七件、その他二件)、



↑月1回の研修風景

相談や問い合わせ二二件となっている。英語での依頼は数としては多いが、いわゆるネイティブスピーカーからの依頼は現在まで〇件で、依頼者とわれわれとの共通言語が英語であるケースばかりである。昨年あたりから韓国・朝鮮語や中国語の依頼が増え始め、また「英語も少しなら可能だができれば母語で」との依頼に応え、アラ

ビア語やタイ語のボランティアを確保して派遣するケースも出てきた。日本語での依頼は、滞日年数が長いので言葉の通訳は必要ないが、日本の病院へ行く心細さを訴えての依頼であった。設立時からの「責任」問題の議論の中で、当面は緊急・重篤な患者の依頼は受けられないこととしているが、実際には三件、緊急の依頼にも対応した。

4. 今後の課題

(1) 地域にセーフティネットワークを

一〇〇件近い依頼や相談を経験して分かったことは、ニーズが非常に多様であることである。つまり、一団体だけでこの活動を進めていくことの困難さである。今後重要になるのは、頼りになる個人や団体相互のネットワークの存在であろう。日ごろからお互いの顔が見え、それぞれの得意分野や人間性が分かるような関係でつながったネットワークである。地域密着型でこれまで活動してきたが、今後も信頼できるネットワークをつくっていく、本当に困っている人にとってアクセスしやすく利用しやすいものとしていきたい。

(2) コーディネートの重要性

依頼者をボランティアや医療機関などとないでいくコーディネーターには、会員やネットワーク上にいる人たちの個性や得意分野が把握できていることや、依頼者の個性、文化や依頼内容に配慮しながら短時間で人や相談機関をコーディネートする能力な

どが求められる。個々のケースのコーディネートには時間がかかることも多く、精神的な疲労を伴うこともある。依頼終了後にそれぞれのケースから得た教訓を会内に返していく事も重要な役割となる。今後はコーディネーターをどう育てていくかということとともに、コーディネートの機能を「みのお医療ネット」のみが担当するのではなく、行政や国際交流協会や医療機関との協働の仕事とできないか、そのシステムのあり方を関係者の間で議論していきたいと考えている。

(3) 社会に発信できる力を医療サポートシステムへの提言を旨として

今後、在住外国人の医療保障という大きな課題に向けて、実際の経験を踏まえながら広くかつ深い議論がさらに進められ、よりよいシステムが構想されていかなければならないと考える。利用者の視点に立ってよりよい医療サポートシステムづくりに向けて具体的な提案を検討し、発信していくことも私たちの今後の課題である。

*「みのお外国人医療サポートネット」の活動の詳細については以下を参照されたい。
・二〇〇二年・二〇〇三年度活動記録集「みのお外国人医療サポートネット」発行、二〇〇四年一〇月
・「医療通訳ボランティア研修会 報告書」(みのお医療通訳ボランティアネットワーク編集、(財)箕面市国際交流協会発行、二〇〇二年二月)
・みのお外国人医療サポートネット ホームページ
http://www.hcn.zaq.ne.jp/minoh-medi-net/